

# 女性 医師への道を拓く

一人の女性がつけた一本の道、その道は日本で初めての女性医師への道。  
また、婦人解放の先覚者として栄光と波乱の生涯を閉じた、  
日本の公許女医第1号“荻野吟子のロマンあふれる真実の道”。  
いま、その道を辿ってみたい。

荻野吟子女史は、江戸時代末期の嘉永4年(1851年)3月3日、武蔵国幡羅郡俵瀬村(現在の熊谷市俵瀬)に生まれ、幼少から聡明にして学問を好みます。

18歳のとき近郷の大名主と結婚しますが、不慮の病気を理由に離婚、婦人科治療を受けた経験から女性医師の必要性を痛感、自ら医師になることを決意します。

上京し、東京女子師範学校(現在のお茶の水女子大学)を卒業、有志の尽力を得て女人禁制であった私立医学校“好寿院”に入学、好成績で卒業します。

当時、女性に医術開業試験の受験は認められず、女性が医師になる道は閉ざされていましたが、荻野吟子女史はもちまへの根性で制度改正に奔走、多くの師友の協力により、ようやく受験の運びとなります。

明治18年(1885年)医術開業試験に女性として初めて合格“日本公許登録女医第1号”の偉業を見事に達成、本郷区湯島三組町に荻野医院を開業、医療に力を尽くします。

再婚後、理想郷建設をめざす夫とともに北海道のインマヌエル(現今金町)に渡り、後に瀬棚(現せたな町)に移り医院を開業、開拓民の医療に従事します。

医師としての一方、医療・婦人開放運動の先駆者として活躍、女性の地位向上や衛生知識の普及に大きな貢献をしました。

夫の病没を機に東京へ戻り、本所区新小梅町に医院を開業、大正2年(1913年)6月23日、病気により63歳で永眠、栄光と波乱に満ちた生涯を閉じました。

“荻野吟子記念館”は熊谷市俵瀬の生誕之地史跡公園に平成18年5月1日開館、生家の長屋門を模した木造平家建ての和風建築です。

展示室では、多くの困難を乗り越え成し遂げた偉業の数々を、時代に合わせた年表や資料等により詳しく説明しています。

“日本で初めての女性医師への道、ロマンあふれる真実の道”

今日に伝えられる栄光は、荻野吟子女史のたゆまぬ努力のたまものであり、私たちの心に深い感動を与えています。



記念館外観

記念館の外装は生家の長屋門を模して建てられている

(荻野家は俵瀬村の旧家として代々受け継がれてきたが、現在、荻野吟子の往時を伝える建造物は、群馬県千代田町赤岩の光恩寺に移築された長屋門だけで、国の登録有形文化財となっています。)



移築された長屋門



荻野吟子生誕之地史跡公園

埼玉ゆかりの  
**三偉人**

**塙保己一**

自らの障害を乗り越え、「群書類従」の編さんなどを行なった。

[本庄市]

**渋沢栄一**

企業の育成や社会事業に尽力し、近代日本経済の礎を築いた。

[深谷市]

**荻野吟子**

たゆまぬ努力の結果、日本で初めての公許登録女医となった。

[熊谷市]



記念館入口



医学書



荻野家に  
伝えられた  
什器



展示室



展示室



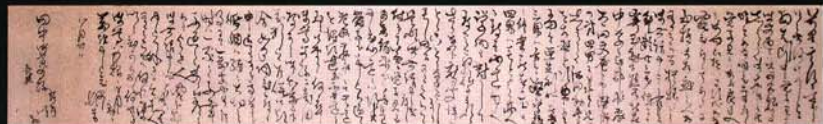
人その友のためには  
己の命を損つるは  
是より大なる愛はなし

(ヨハネ伝十五章第十三節より)

左記の句は、荻野吟子が愛唱した聖句です。

### 荻野吟子の歩み

- 嘉永4年(1851) 3月3日武蔵国幡羅郡依瀬村(現熊谷市依瀬)に父綾三郎、母嘉与の五女ぎんとして生まれる。
- 慶応4年(1868) 上川上村(現熊谷市)名主 稲村貫一郎と結婚。(18歳) 画家奥原晴湖と出会う。  
(この頃) 両宜塾(寺門静軒開塾)に入塾、松本万年に師事。
- 明治3年(1870) 協議離婚し、大学東校病院に入院。女医を志す。
- 明治6年(1873) 父綾三郎死去の後、国学者井上頼因に入門。
- 明治7年(1874) 内藤満寿子の招きにより甲府に赴き助教となる。
- 明治8年(1875) 東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)に入学。  
12年7月同校を卒業。(29歳)
- 明治12年(1879) 軍医監石黒忠恵の尽力により私立医学学校好寿院に入学、15年同校卒業。
- 明治17年(1884) 内務省長与専齋衛生局長に医術開業試験の女子受験許可を陳情。  
医術開業試験を許可され受験、前期試験にただ一人合格。
- 明治18年(1885) 3月、後期試験に合格し、日本初の公許女医第1号となる。(35歳)  
本郷区湯島三組町に医院開業。
- 明治19年(1886) 下谷黒門町に移転。本郷教会にて洗礼、キリスト教婦人矯風会に参加し、風俗部長となる。
- 明治23年(1890) 志方之善と結婚。(40歳)
- 明治24年(1891) 志方之善、キリスト教徒による理想郷建設をめざし北海道に渡る。  
(この頃) 吟も渡道し、インマヌエル(現今金町)にて夫の伝道に協力。
- 明治30年(1897) 北海道瀬棚(現せたな町)に医院を開業。
- 明治36年(1903) 志方之善、同志社に再入学。
- 明治38年(1905) 志方之善、瀬棚で病死。
- 明治41年(1908) 北海道を引揚げ、東京本所区新小梅町に医院を開業。
- 明治45年(1912) 志方籍をはなれ荻野家に復籍。
- 大正2年(1913) 6月23日病氣にて死去、享年63歳。



田中かく宛の手紙



入口スロープ



休憩室

### ご利用案内

- 開館時間 9時～17時(変更の場合もあります)
- 休館日 月曜日(祝日開館、翌平日に休館)  
年末・年始、展示品整理期間中



### 交通案内

- バスご利用の場合 JR熊谷駅から葛和田行きに乗車、「土手上」で下車(所要時間約30分)下車から徒歩約20分。
- お車ご利用の場合 関越道東松山IC下車、県道・国道407号経由で30km。花園ICから国道140号・国道407号経由で約25km。

荻野吟子生誕之地史跡公園

熊谷市立 荻野吟子記念館

〒360-0223 埼玉県熊谷市依瀬581-1